

つなげる授業～節目ごとのまとめを大切に～

「前時の成果が身になっていないことがよくあるんです。」

どんなに盛り上がった授業も、放っておいてはその体験は雲散霧消してしまいます。教師は常に子どもの発言や行動を観察しつつ「この授業での学習効果」を頭の中でまとめていかなければなりません。

「今日の話合いで〇〇が明らかになりましたね」

「しかしまだ××については解決していませんね」

授業の中で、何回か、これら「束ね」の言葉が発せられることで、授業の流れは明確になります。現在の課題は何か。教師はこれをずばりと一言で捉え、取り組むべき幹をはっきりと提示すべきです。まとめも確認もない授業では、当然、次の時間につながりません。

授業のまとめ方にはいくつかのポイントがあります。

1 タイトルでまとめる: 応仁の乱の後の世の中がどうなったのかということについて4つの勉強をしましたね。一つ目は京の町の荒れ、二つ目は・・・というように箇条書的にタイトルをつけてまとめると分かりやすくなります。

2 経過をまとめる: 植物は栄養を根からだけとるのかという問題を話し合っているうちに、葉の働きが問題になり、光合成という働きで葉によってデンプンが作られているんだということが分かりましたね。というように端的に授業の経過をまとめることで、学習成果を明らかにします。

3 板書を生かす: 板書は最も手近な授業のまとめです。最後に特に重要な事項を赤字で困ったり、重要でない部分は消してポイントを際立たせたり、復唱させるなど積極的に活用しましょう。

4 次時への期待をもたせる: とてもよく頑張ったから、次の時間はもう一段ずつ跳び箱を高くしよう。次の時間はいよいよ合唱で歌ってみようね。といったように短くずばりと期待をさせ学習意欲をかき立てるよう心がけましょう。

5 励ましや希望の言葉を贈る: とても上手に歌えましたよ。いろいろな考え方が出されてよかったね。このような言葉がさりげなく言えるようになった時、教師としての大きな成長があったと自覚していいのだと思います。

参考: 野口流「授業の作法」より 野口芳宏: 著(学陽書房)

思考力・表現力の育成で算数好きを増やす
—『はてな?』と『なるほど!』で魅力ある授業を創る—



「子ども健康教育相談」から

当相談では来所相談からの要請を受け、SST(ソーシャルスキルトレーニング)を児童生徒に行っております。

SSTは日常の生活場面で適切な判断を基にどう動けばよいかを考えさせ、他の子どもとの良好な関係を築き、また円滑に行動に移せることをねらいとして実施しています。これらの児童生徒に対応して感じるのは、本人が穏やかな気持ちでいられるときは適切な対応の仕方が思い浮かべられるということです。感情がたかぶっている時は、まず落ち着かせましょう。



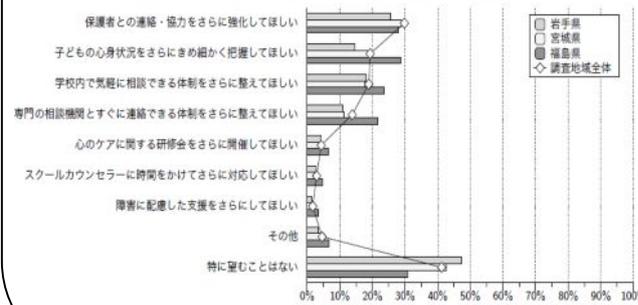
子どもたちの心のケアについて

～ 中長期支援における心のケアについて ～

◆ 被災した子どもと家族がいま必要としていることや気がかりなことを現実的に解決できるような支援と情報を提供することが中長期の心のケアの一つにあります。信頼関係を基盤としてチームで取り組みたいですね。

参考資料

心身の健康問題への対応で保護者がさらに学校に望むこと



H24.5「非常災害時の子どもの心のケアに関する調査」結果 文部科学省

授業力向上講座Ⅲ「算数講座」資料より

- (1) 算数の授業で大切にしていること(授業観)
→例: 「できる」から「味わう」へ考え方を変換してみること
- (2) おもしろい教材が算数好きを増やしている(教材研修力)
→例: 子どもが動きだす教材開発を図ること
- (3) 教師のこの一言が子どもの動きを変える(学習指導力)
→例: 教師の役割を見直してみること
- (4) 「授業を楽しく」から「算数を楽しく」へ(人間性)
→例: 教師自身が授業、授業づくりを楽しむ心をもつこと